

文化学科

教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

【教育課程・教育方法】

文化学科のカリキュラムは、全学共通の基盤的科目群と学科で提供する専門科目群の二つから構成されている。科目は1年次から4年次まで年次を追って段階的に履修できるように配置されている。

文化学科の学生は全員、原則として1年次に全学共通の基盤的科目群、ならびに学科専門科目の中でもっとも基礎的な知識および方法論を身につける科目を履修し、学科ディプロマ・ポリシーの学修成果を身につけるための基礎的な学力を身につける。さらに1年次から4年次にかけての専門科目の履修を通して、ディプロマ・ポリシーの学修成果を身につけ、達成度レベルを上げていくこととなる。4年次には卒業研究が必修であり、この科目で提出する「卒業研究」が4年間の学びの集大成としてディプロマ・ポリシーの学修成果が最も端的に示される。

講義科目

2～4年次に専門知識を習得するため、視覚・比較・地域の分野の理解を深めるための講義科目を置く。

演習科目

講義科目、1年次の「基礎演習」で習得した知識や方法論を実践する場として、2年次に「演習Ⅰ」、3、4年次に「演習Ⅱ」を置く。自ら問題を設定して資料の読解や調査を主体的に行い、調べたことを論文として表現する力、他者と意見を共有・議論するコミュニケーションの力を養成する。また留学・海外研修を必須の内容とする演習科目を置く。自他の文化の多様性・相互関係の理解を深め、国際的な場で研究し発表する異文化コミュニケーションの力を養成する。

卒業研究

4年次に大学での学修の集大成として卒業論文を置く。一つのテーマについて、自らの視点から論を展開し、学術論文としてまとめ上げる。口頭試問や公開発表会を実施し、成果を確認しあう。

資格科目

博物館学芸員の資格に必要な専門科目を置く。

【学修成果達成のための科目】

DP1 講義科目

DP2 講義科目・演習科目

DP3 講義科目・演習科目

DP4 卒業研究

DP5 演習科目・卒業研究